

日本キリスト教会大阪北教会

2017年8月6日 聖日礼拝説教 牧師森田幸男

聖書 エフェソの信徒への手紙3章1節～13節

03:01 こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となっているわたしパウロは……。 03:02 あなたがたのために神がわたしに恵みをお与えになった次第について、あなたがたは聞いたにちがいありません。 03:03 初めに手短かに書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました。 03:04 あなたがたは、それを読めば、キリストによって実現されるこの計画を、わたしがどのように理解しているかが分かると思います。 03:05 この計画は、キリスト以前の時代には人の子らに知らされていみせんでしたが、今や“霊”によって、キリストの聖なる使徒たちや預言者たちに啓示されました。 03:06 すなわち、異邦人が福音によってキリスト・イエスにおいて、約束されたものをわたしたちと一緒に受け継ぐ者、同じ体に属する者、同じ約束にあずかる者となるということです。 03:07 神は、その力を働かせてわたしに恵みを賜り、この福音に仕える者としてくださいました。 03:08 この恵みは、聖なる者たちすべての中で最もつまらない者であるわたしに与えられました。わたしは、この恵みにより、キリストの計り知れない富について、異邦人に福音を告げ知らせており、 03:09 すべてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。 03:10 こうして、いろいろの働きをする神の知恵は、今や教会によって、天上の支配や権威に知らされるようになったのですが、 03:11 これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです。 03:12 わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます。 03:13 だから、あなたがたのためにわたしが受けている苦難を見て、落胆しないでください。この苦難はあなたがたの栄光なのです。

説教 『キリストが実現された永遠の御計画』

◆今朝、NHKのテレビ・ニュースを聞くとともにしに聞いておりましたら、昨夜の淀川の花火大会に50万の人が集まったと報じられていました。聞き違いではないかと確かめましたら、確かに50万人の人が集まったようです。昨年は46万人だったとの事でした。花火の打ち上げ数は1時間足らずの間に20万発以上だそうです。花火は打ち上げるのですが、これが核爆弾が空からI発落ちれば、地は地獄と化します。今日は広島原爆から72年目の記念日です。2度とそのような事があってはなりません。このように花火を打ち上げられるのは、それなりに平和なのだと思います。花火大会が続けられることは願わしい事だと思います。

◆さて、イエス・キリストを知るといふことは、全てを超越し、全てに卓絶した真理、唯一の真理の認識であります。それは、懸命な求道の果てに、遂に到達するというようなものではなく、ただ「神様の啓示」による以外にありません。3節でパウロは、「初めに手短かに書いたように、秘められた計画が啓示によってわたしに知らされました」と言っております。「啓示」とは、今の今まで秘め隠されていたものが、啓き示される事です。手元においてある国語辞典では、このような説明がなされておりました。『神が、人間の理解力を越えた事柄について教える事』と。それなりの説明になっていると思います。

◆ご存じのように本書エフェソ書の著者パウロは、熱心なファリサイ派のエリートでした。神様の御心については、何もかも知り抜いており、その教えを守っていると自負し、確信を抱いていたサウロが（わたしたちは「パウロ」と呼び慣れているのですが、これは本名ではありません。ラテン語で「小さい者」の意味であります。）彼は8節でこう言っております。「この恵みは、聖なる者たちすべての中で最もつまらない者であるわたしに与えられました。」と。この「最もつまらない者」という字は、文字通りには「最も小さい者」という字であります。

◆ダマスコに居るキリスト者の迫害に向かう途上、彼は、太陽よりも輝く復活の主イエス・キリストの啓示の光に照らされた時、その一撃で、彼は、文字どおり見えない人となり、今の今まで、先頭切って、人々をリードしていたサウロが、人に手を引いてもらわねば歩けない人になります。

◆時々申しますように、聖書を翻訳するということは、至難中の至難、難行中の難行であります。特にわたしは、パウロの手紙の翻訳は極めて困難だと思っています。聖徒たちの中で最も小さくつまらない者が書く、全てに卓越したイエス・キリストの恵みの証しなのです。パウロ自身に、驕り、自惚れの片鱗がなくても、訳者がパウロへの敬愛の余り、先生ぶった感じに訳してしまうならば、その翻訳は、それを読む人をして、恩寵から逸らしてしまう結果になります。パウロのみならず、キリスト者に、驕り、自惚れは全く相応しくありません。

◆先日もお話したかと思いますが、一切のものを超越する事柄、存在が露わとなる時、その他の一切のものとの差異、区別、垣根は崩れます。先日テレビで、中国の巨大石柱林の映像を観た時、その自然の凄さに圧倒されてしまいました。中国の大きさを思い知らされました。その事がある人に話したら、この石柱林が、映画『アバター』のモデル地になっているそうです。因みに映画『アバター』は、興行収入世界記録を作ったそうです。監督：ジェームズ・キャメロンで、「タイタニック」の監督でもあります。圧倒的事実が現れる時、相対的なものの争いは、消滅するのです。

◆9節「すべてのものをお造りになった神の内に世の初めから隠されていた秘められた計画が、どのように実現されるのかを、すべての人々に説き明かしています。」11節「これは、神がわたしたちの主キリスト・イエスによって実現された永遠の計画に沿うものです。」ここに「永遠の計画」とあります。「永遠」とは何でしょうか。それは、「時空に満ち、時のはじめから時の終わりまで貫いている」と言うことです。キリストにおいて、初めて完全に啓示されるのですが、それこそ、永遠に時空を満たし、貫いている事、それが永遠です。その永遠の神様の御計画、御ところが、イエス・キリストによって啓示されたのです。

◆ところで、当然のことですが、ユダヤ人にはユダヤ人の歴史・伝統・文化があります。エペソにはエペソの歴史・伝統・文化があります。日本には日本の歴史・伝統・文化があります。それはよくも悪しくも歴史の事実です。しかし、それらの違いをこえて、すべての人をひとつにし、平和の内に生かすのは、主イエス・キリストをほかにしてはありませぬというのが、最もつまら

ないパウロの確信です。その新たなる永遠の確信の証し、宣べ伝えるためにパウロはさまざまな苦難を受け、遂には十字架に架けられて殉教したのです。しかしパウロは「落胆しないでください」と言います。パウロはもう何が起きようが、何が奪われようが、もう決して失われることのない祝福に満たされているのです。これが、私達キリスト者が与かっている永遠の天的幸いであります。

◆もう一度、この書の冒頭の3～7節を読みましょう。「01:03 わたしたちの主イエス・キリストの父である神は、ほめたたえられますように。神は、わたしたちをキリストにおいて、天のあらゆる霊的な祝福で満たしてくださいました。01:04 天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。01:05 イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。01:06 神がその愛する御子によって与えてくださった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。01:07 わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。01:08 神はこの恵みをわたしたちの上にあふれさせ、すべての知恵と理解とを与えて、01:09 秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。」私たちは何と云う豊かな幸いに与かっている事でしょうか。

◆お祈りいたします。

恵みと憐れみに満ち給う主イエス・キリストの父なる神様。

今新たにこのわたしが今日ここにある事を許されていることが、ただあなたの御恵みによることを覚え、心から御名をあげ、感謝いたします。神様、あなたのこの恵みに与る事こそが、全ての人々に対するあなたの永遠の御心である事を、日々刻々覚え、それを生き、証しする私達一人一人であらしめてください。どうか御国を来らせて下さい。御心が天になる如く、この地にも成らせ、争いを鎮め、平和を来らせて下さい。この祈り、主イエス・キリストの御名を通し御前にお捧げいたします。アーメン。